

県内各地域の農業・農業者の動向報告（1月）

農産園芸課生産指導係

○伊方町三崎地区でアルバイト雇用の取組み始まる

伊方町三崎地区の「三崎雇用促進協議会」は1月4日、JAにしよう三崎共選で同地区アルバイト事業に係る対面式を開催し、農家との顔合わせのほか、就労内容や作業に関する打合せなどを行った。参加者は、アルバイトや受入農家など関係者ら29人。

同協議会は、地区の労働力確保を目的として平成29年度に発足。昨年度実施した「えひめ版農業ワーキングホリデー推進事業」の成果と同JA管内真穴地区の「みかんの里アルバイト事業」のノウハウを参考に、JAにしよう農業振興部と三崎共選、伊方町が中心となって組織・運営する。

発足後初の事業となる今回は、受入農家20人に対してアルバイトは12人（男性7人、女性5人）となった。アルバイトらは、1月5日から3月末にかけて複数農家の園地を回りながら、地区の特産である清見や不知火、サンフルーツなどの収穫・運搬作業に従事する。

また、期間中の宿泊所は、地元企業の社員寮や移住促進用の体験住宅をシェアハウスとして利用する。

JAにしよう農業振興部は、今後の事業運営について「昨年のワーホリ事業がきっかけとなり、地域に労働力確保の意識が芽生えた。今後はアルバイトの移住・定住や就農も視野に、地域活性化の中心的な取組みにしたい」と抱負を語った。

地域農業室では、今後も地区の労働力確保に関する取組みを支援する。



対面式の様子



打合わせの様子

えひめ版農業ワーキングホリデー推進事業：都市部の若者（大学生）などが冬休みなど長期の休暇を利用し、県内に一定期間滞在しながら、地域住民との交流を通して田舎暮らしを働きながら学ぶ取組み。平成28年度は、JAにしようとJAえひめ南が事業実施。愛称は「えひめ・みきゃんワーホリ」。

みかんの里アルバイト事業：1994年に発足した「真穴みかんの里雇用促進協議会」が実施する労働力確保事業。都市の若手を働き手として雇用し、収穫時期の労働力不足解消や産地PR、後継者探しに繋げる。八幡浜市の補助を受けている。

（八幡浜支局地域農業室）

○国内初！JA 東予園芸がキウイフルーツ選果場の「SQF」認証取得！

JA 東予園芸は1月4日、国内初となる選果施設での国際的な食品安全認証「SQF」を取得した。

「SQF」は、(株)ゼスプリが扱うキウイフルーツの選果に必要な認証と位置づけられており、同JAでは本認証取得に向け構成したHACCPチーム（同JA、西条市、産地育成室

の職員)が、昨年1月から毎月コンサルタント指導のもと書類作成を進め、9月14日に第1次審査(書類)、11月7～8日に第二次審査(施設及び運営状況)を受けていた。

今回の認証取得により、選果場内の食品安全管理体制と品質保証に対するルールの明確化、異物混入の減少、クレーム対応の迅速化などが図られ、消費者に対し安心安全なキウイフルーツを提供できる体制が整うことでブランド力の向上や価格の安定が期待される。

S Q F : Safe Quality Food の略で、製品の安全や品質を管理する仕組み。なお、認証の取得は、新ふるさとづくり総合支援事業の活用により、関係機関が連携して取り組んでいた。



S Q F 認定証

(東予地方局産業振興課 産地育成室)

○児童らがこんにやく作りなどの体験を満喫

鬼北の里グリーンツーリズム推進協議会は1月7日、NPO法人「都会と田舎を結ぶ食育ネット」と協力し、鬼北町内の宮成構造改善センター、あかまつ農園 15-HOUSE 及び成川溪谷休養センターで松山市内の小学生児童を対象としたこんにやく作りなどの農業体験を実施した。

これは、子どもたちに豊かな自然の中で農林漁業体験や新鮮な農林水産物を味わってもらい、都市と農村との交流を促進することが目的。南予グリーン・ツーリズムネットワーク会議が受入れ先として同協議会を斡旋し、同町で初めて開催した。

当日は、小学校1～4年生の児童とサポート役の大学生らの50人が参加。こんにやく作りやいちご狩りのほか、鹿の角アクセサリー作り体験などを行った。

こんにやく作り体験では、父野川こんにやく研究会の指導のもと児童が4班に分かれてこんにやくを混ぜたり丸めたりした後、試食。

児童らは「なかなか体験できないこんにやく作りの体験ができて良かった」「手作りこんにやくを初めて食べたが、弾力があっておいしかった」と満足そうに話した。

(鬼北農業指導班)



○農業指導士が若手女性農業者等へアドバイス

東予地方局産業振興課は1月10日、東予地方局で平成29年度農山漁村男女共同参画強化事業に係る若手女性経営参画支援講座の一環として「農業経営研修会」を開催し、女性農業者及び若手農業者合わせて22人が参加した。

これは、女性の経営参画とリーダーの発掘・育成、就農5年以内の農業者の農業技術習得と仲間づくりを目的に開催したもの。当日は、管内の農業指導士2人(日野正一氏、真鍋美鈴氏)が「我が家の農業経営と若手農業者に期待すること」と題して講演した後、両氏と参加者で意見交換を行った。

参加者から「農業に対してのこだわりや経営理念」などの質問が出されると、指導士から「自信が持てる農産物を生産すること」「相談できる友達を作ること」「目標を設定し継続すること」など経験を踏まえたアドバイスがあった。

参加者らは、「大変勉強になった」「今後の経営に生かしたい」など今後の農業経営に高い意欲を示した。



農業指導士によるアドバイス



熱心に耳を傾ける若手女性農業者等

(東予地方局産業振興課 地域農業室)

○「大江営農組合」がIターン研修生の受け入れを開始

伊方町大江地区の「大江営農組合」（井上善一組合長、10人）は1月15日、同組合の管理する柑橘園にて、Iターン研修生の受け入れを開始した。

同組合は、過疎・高齢化による廃園拡大を防ごうと、平成26年度に地元有志9人で発足（任意組織）。廃園寸前の園地を引き受け、現在までに約25aを共同管理してきた。

発足後初の研修生受け入れとなる今回は、三重県在住の夫婦2人が参加。2人は、果樹の移住就農を目指す中で、「愛媛移住コンシェルジュ」へ相談し、JAにしゅう管内での研修が決まった。研修期間は7日間を予定し、地区の主幹作目である不知火やポンカンなどの中晩柑の収穫作業に従事する。

妻の久保玲香さんは「(作業を通して)柑橘を選んでよかったと改めて思った。期間中は収穫作業のほか、選果や管理作業など多様な経験を積みたい」と今後の意気込みを語った。

同組合の佐々木利王さんは「受け入れ側としても普段と違う新鮮な気持ちで作業に取り組めるなど、メリットがある。この縁をきっかけに、大江での就農を志してもらえれば」と語った。

夫婦は、今後約2か月の間に八幡浜管内の担い手育成支援チーム計7か所を回り、その中から最終的な移住就農候補地を選定する。

地域農業室では、今後も多様な担い手確保を支援する。



収穫作業の様子

愛媛移住コンシェルジュ：県内の移住関連の情報発信を強化するため、「ふるさと回帰支援センター」（東京都豊洲）に開設する窓口の専属相談員。移住者希望者の相談やニーズに合う地域の紹介のほか、就農希望者に対しては県の支援策（補助事業など）の説明も行う。

担い手育成支援チーム：新規参入者の研修受け入れを地域の複数の農家リーダーで構成するもので、八幡浜地区に7つのチームができており、大江営農組合もその一つ。以前は、農家個人が就農希望者を受け入れていた。

(八幡浜支局 地域農業室)

○JA 愛媛たいき・柑橘部会が「柑橘生産者大会」を開催

JA 愛媛たいき・果樹生産出荷協議会柑橘部会（会長：植村賢治）は1月17日、大洲市長浜町ふれあい会館で、平成30年の「柑橘生産者大会」を開催し、会員約40人が参加した。

同大会では、平成30年産カンキツの生産・販売対策について検討したほか、中晩柑類を中心とした果実品評会（出品数41点）を実施。生産対策では、マルチ栽培やマルドリ栽培

の推進、浮皮軽減剤の散布、栽培品種の絞り込みによる品種構成の再構築のほか、甘平や紅まどんな栽培等の研究会活動の促進等について担当者から説明があった。

また、産地育成室職員から「温州みかんの浮皮軽減対策」についてスライドを使った報告があり、参加者は熱心に質問していた。

産地育成室は、今後も関係機関と連携しながら、柑橘部会の活動を支援する。



(八幡浜支局産地育成室)

○JA えひめ南と南予果樹同志会が「柑橘生産推進大会」を開催

JA えひめ南と南予果樹同志会（会長：長岡隆浩、1,098人）は1月18日、宇和島市吉田公民館で「2018年えひめ南柑橘生産推進大会」を開催し、会員ら約200人が参加した。

大会では、JA えひめ南青果部みかん指導課の大谷課長が、平成30年産温州みかんは平年より着花が多い見込みであるため、品種・園地条件にあわせた剪定で花芽バランスを整え安定生産に努めるよう説明。続いて、県みかん研究所の加美所長を講師に「冬から春の対策と愛媛48号の特性」と題し、温州みかんの細根増加に有効な土壌管理や甘平の寒害対策のほか、同研究所育成の愛媛48号の特性について記念講演があった。

また、同日開催した果実品評会では、中晩柑類を中心に190点の出品があり、特産の南柑20号が最高賞である愛媛県知事賞を受賞した。

JA えひめ南の29年産温州みかんは、2万トン（昨年比92%）の生産を見込んでおり、産地育成室は今後も関係機関と連携しながら需要に即した柑橘生産を支援する。



(南予地方局産業振興課 産地育成室)

○今後の取組みにも意欲！台湾からの民泊受入れ

しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会は1月20日、台北市立華江高級中学の教育旅行生33人を1泊2日の民泊で受け入れた。

生徒らは、多々羅しまなみ公園で行った歓迎式の後、10軒の農漁家に分かれ、かんきつ類の収穫や食事作り体験などで交流を深めた。

翌朝の歓送式では、生徒代表が「民泊は初めての体験であったが、家族同様に温かく迎え入れてくれて楽しい思い出となった」とお礼のあいさつをした。

合計4回実施した同協議会による台湾からの教育旅行の今年度受入れは今回で終了したが、次年度は受入農漁家を増やす予定であり、積極的な海外からの民泊受入れに意欲を示している。しまなみ農業指導班は引き続き体験交流を通じた交流活動を支援する。



歓迎式での学校側のあいさつ



歓送式後の記念撮影

(しまなみ農業指導班)

○新規就農者が「はれひめ」の剪定に挑戦

今治支局地域農業室しまなみ指導班と産地育成室技術普及グループは1月24日、岩城実証圃場において、上島町の新規就農者ら5人を対象にかんきつ栽培の技術習得研修を開催した。

当日は、剪定の目的や時期、方法等について資料を見ながら説明した後、実証圃場で「はれひめ」の剪定を実習した。

受講者らは、より実践的な剪定を身につけるため、それぞれが1本のはれひめの樹を15分間で剪定することにチャレンジ。時間を気にしながらも「この主枝はどう切ればいいのか?」「結果母枝はもう少し間引いた方がいい?」などと質問しながら、熱心に取り組んだ。結果として制限時間内で剪定を終えるのは無理だったが、適期に効率よく作業を行うことの重要性を学んだ。

指導班は、新規就農者が栽培技術を早期に習得できるよう、当研修会を今後も定期的に行う開催する。



剪定の考え方を学ぶ



15分間で剪定に挑戦

(しまなみ農業指導班)